



こすもスマイル



発行／小林市立病院
地域医療連携室

14号

平成27年7月2日発行

～医療技術部長のあいさつ～



内科より「こすもスマイル」でのご挨拶をいたします。
内科常勤医が 私 1 名になって早や 4 年以上を経過しました。この間医師確保に多くの関係者が尽力いたしてきましたが、地方での医師不足は顕著で改善できておらず地域医療に十分お答えできなく、残念な結果になっております。しかしながら昨年より循環器専門医の網谷 滋先生が週 1～2 回こられ、恒久ペースメーカーの植え込みが再開されました。

院内で看護部につぐ人員の医療技術部のご紹介をいたします。チーム医療の一層の充実のため、組織改編され、薬剤室・臨床検査室・診療放射線室・臨床栄養室・リハビリテーション室・臨床工学室をまとめ医療技術部としたものですが、1 個の技能集団として、職種間の意思疎通と命令系統の統一を図るため組織されたものです。

現在、当院は外科系中心の医療となっていて、その治療行為は侵襲を加えることが必須であり、可能な限りベストの状態を加療される必要があります、ここに管理栄養士の充実やリハ部門の充実がはかられ現在総勢 32 名になりました。現在の医療は多職種の関与するヒトの集約産業となっていますが、おかげで一般病棟の 7 対 1 看護の運営ができ、回復期リハ病棟では予想のほか患者さんの機能回復が早く、予定より早い退院となっていて、うれしいような嬉しくないような結果となっています。これからもチーム医療の充実に一層努力いたし、西諸の地域医療の発展に寄与できたらと考えます。

小林市立病院 医療技術部長 野本 浩一

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」



【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します

診療部紹介

今回は

泌 尿 器 科

です。

日頃より大変お世話になりありがとうございます。

昨年4月から川越真理、森勝久2名による新体制のもと診療にあたらせていただいております。

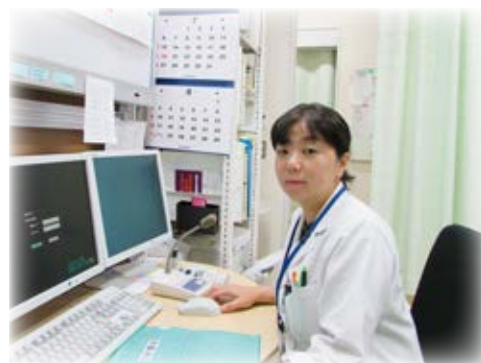
川越真理は約10年間にわたる泌尿器科一般、透析の修練を鹿児島大学泌尿器科関連病院で積んだ後、大阪母子保健総合センターに約2年間留学。以後約10年にわたり鹿児島を中心とする南九州の小児泌尿器科医療を牽引してきました。今回、後輩の成長や地元小林市への貢献の思いがまさに重なり赴任してまいりました。現在は、当院での泌尿器科診療を中心に、週1回のペースで鹿児島市立病院や都城医療センター（旧 国立都城病院）で小児泌尿器科外来や手術を行いながら診療に従事しています。

森は内科撤退や病院移転の激動の時を含む平成21年4月から平成24年3月まで当院で勤務したあと、鹿児島大学泌尿器科医局の命を受け国立病院機構 都城病院泌尿器科医長として2年間研鑽をつみ、今回小林の地に舞い戻ってきた次第です。

赴任して1年、多数の地域の先生方のご紹介をいただき泌尿器科標準手術数も116例（泌尿器科教育基幹施設基準80例以上）にのびりました。主な内訳は腹腔鏡下腎尿管悪性腫瘍手術8例、開腹腎摘出術1例、開腹前立腺全摘出術8例、経尿道的膀胱腫瘍切除術28例、経尿道的尿路結石碎石術20例、経尿道的前立腺切除術8例、膀胱全摘+尿道摘出+回腸導管造設術2例、ブラッドアクセス手術20例などです。

当科におきましても、患者さんに切れ目のない良質な医療を提供するために様々な領域で病診連携や福祉施設との連携が必要不可欠となっています。まだまだ若輩者の二人ですが積極的な研究会、学会参加で泌尿器科診療の質の向上を図り少しでも地域医療に貢献できるような日々努力して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

泌尿器科医長 森 勝久



看護部紹介

今回は **4 階 病 棟** です。



本院の回復期リハビリテーション病棟は、平成 25 年 6 月に開設し 3 年目を迎えました。今年 5 月末までに 262 名の患者さんが、ご自宅や介護施設・グループホームなどに帰って行かれています。

回復期リハビリテーション病棟の目的は、大腿骨頸部骨折や脊椎圧迫骨折・術後などの患者さんにリハビリテーション・日常生活行動の援助を行い、在宅へ退院調整していくことです。医師・看護師・介護福祉士・理学療法士・作業療法士・言語療法士・管理栄養士・退院支援看護師・メディカルソーシャルワーカーが連携し支援をしています。

全国的に高齢化が進んでいますが本病棟の入院患者さんも平均年齢 79.7 歳（昨年 12 月まで）と年齢層が高くなっています。高齢化に伴い、寝床・食事・清潔・排泄・服薬などの問題点を抱えやすい状況になります。それに「自宅で転倒した」などの状態が重なると住み慣れた環境で過ごすことができなくなります。この小林では独居の方々も多く、住み慣れた地域で暮らせる環境づくりには、身近な関係者を作ることも必要となってきています。

国が進める『一人でも多くの人を在宅に』を目標に、私たちは、定期・退院調整カンファレンスを通して『住み慣れた我が家に帰る』関わりをしています。一人の患者さんに看護師とリハビリスタッフが受け持ち制を取ることでより深く関わることができ、不安や悩み事にも耳を傾けられる関係性ができています。また、カンファレンスという場が顔と顔を合わせる場となり地域の関連職種の方々との関係性づくりに役立っています。

～家族をまじえてのカンファレンスの状況～



また、長くなった入院生活で患者さんの気持ちを元気づけるため、毎週日曜日レクリエーションを行っています。高齢者の患者さんが多いので、今年 5 月からは日本の慣習に合わせた季節の催しをお茶会に取り入れています。月の終わりにはカレンダー作りを行い、手先の細やかな動きやにこやかな笑顔があり、楽しいひと時を過ごしておられます。

今後も患者さん一人ひとりに望まれた退院支援を行い、前向きな気持ちで自宅・施設に帰っていただくよう支援していきたいと思います。

4 階病棟師長 竹内 かおり

回復期リハビリテーションの様子

この病棟では、毎週日曜日にレクリエーションを行っています。

6月7日のレクリエーションでは、田植えの時期に合わせて「さのぼり弁当」を色紙や新聞紙を使って、患者の皆さんで作りました。



「煮しめの具は、〇〇がおいしいよね。」

「〇〇が入っていると、嬉しいがね〜」

いろいろな意見を出し合いながら、皆さん楽しそうに作られていました。

さすが、お弁当作りのベテランといった感じでした。

そして、完成したお弁当がこちらです！

- ・ 赤飯
- ・ 巻き寿司
- ・ おにぎり
- ・ 卵焼き
- ・ かまぼこ
- ・ 煮しめ などなど

食べられないのが残念です。見ているだけでお腹がすいてきますね。



いただきます〜す！

入棟判定会議の様子



メディカル部門紹介



今回は **事務部** です。



今回は、小林市立病院（以下「当院」と称します。）の事務部について御紹介いたします。まず当院の設置者や事業管理者等について改めて御説明いたします。

当院は、公設公営の病院です。開設者は小林市長で、地方公営企業法の全部を適用しており、市長が事業管理者（市長が任命し4年任期の特別職）に内部組織の設置、職員の任免、給与や勤務時間等の管理運営の権限を委任しています。

当院は、民間病院と異なり地方自治法、地方公務員法や地方公営企業法等が適用されているため、条例や予算、決算は事業管理者が原案を作成し、市長に送付し、市長が議会に提案し議決を経なければなりません。

当院は、小林市役所の組織の一部になりますが、医療職以外の事務職員だけが、市役所との人事交流の対象となっており、現在は事務部長、係長2人と主査1人の合計4人だけが本庁からの出向職員となっています。（4人とも長くなっています。）

それでは、事務部の業務内容を御紹介いたします。事務部は、2階フロアーの事務室に経営企画係（施設基準の管理、施設・設備の管理、電子カルテ等各種システム管理、診療材料の物流管理、データ提出加算の業務やDMATチーム等の業務）9人と財務係（予算、決算の管理、議会対応、職員採用を含む人事管理、職員の給料や手当等の管理等の業務）6人と、1階フロアーに医事室（窓口業務、入院・外来・労災・自賠責等の診療報酬請求等の業務）12人と地域医療連携室（徳田病院長が室長を兼務し、退院調整、診療予約関係や医師事務作業補助等の業務）に7人体制で業務を行なっています。

地域の関係機関の皆さんとは、医療関係では密の濃い連携をさせていただいていますが、事務部門関係の連携については、まだまだ少ないようです。今後は、事務部門についても、皆さんと情報交換など連携が必要と思いますので、御指導くださいますようお願いいたします。

小林市立病院事務部長 角井 孝志



心臓血管外科紹介

ナカムラ エイサク
中村 栄作

～ 医師紹介 ～



プロフィール

○趣味・特技 ジョギング



今回心臓血管外科の診察を担当させていただく中村栄作です。

心臓血管外科医として働いてもう約4半世紀がたってしまいました。その間、宮崎以外に東京、福岡、鹿児島で働いてきました（一番長かったのは、宮崎県立延岡病院です）。私は、もともと熊本の芦北郡芦北町（人吉の近く）というところで生まれ、小学校4年生から八代市（熊本県第二の都市）に引っ越し、そこで高校まで過ごしました。その後、宮崎大学に来て約30年以上を宮崎で過ごしています。

田舎で育ったせいか、祖父ちゃん祖母ちゃんに育てられたせいか（両親共働きでしたので）比較的気は長いと思っています。皆さん気軽に受診していただければ幸いです。最近は、80歳を超える患者さんも多くの方が手術されていますので、心臓血管系に問題があれば年を気にせず相談に来ていただければと思います。

すでに、一度市立病院では診察させていただきましたが、非常にきれいな病院でスタッフの方々も気持ちの良い方が多く、私もスタッフの一員としてできることをやっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

あらかじめ、診察予約が必要になりますので、診察予約申込書もしくは電話にて予約をお願いいたします。

今回のお花

小林市華道連盟より

毎週すばらしいお花を提供していただいております。



おじゃったもんせカフェ紹介



西諸地域のがん患者さんやご家族が通えるサロンを提供することができたらと考え、平成26年9月よりおじゃったもんせカフェをオープンしました。今年の6月で10回目を迎えます。

これまで院内外の患者さんやご家族、サロンに興味を持っていただいた西諸圏内のNPO法人、美容室関係の方々等に足を運んでいただき、とても嬉しく思っております。今後もサロンを過ごしやすい快適な環境にしていくため、利用していただいている方のご意見等を参考にさせていただき、病院全体で取り組んでいけたらと考えております。

地域医療連携室 ソーシャルワーカー 時任 由紀奈



**関心のある方は地域医療連携室まで
お問い合わせください。**

診察予約について

当診療科での待ち時間短縮を目的として
平成26年4月1日から
紹介患者さんの事前予約が必要になりました！



予約方法

- ①別添の「診療予約申込書」にご記入のうえ、FAXでお送りください。
- ②担当科と協議の上、診療日時を決定し、「診療予約通知書」をFAXさせていただきます。

FAX 番号：0984-23-8226

受付時間：9時～16時

※上記時間以外のFAXは翌朝、休日をはさむ場合は
休日明けの対応となりますのでご了承ください



**7月から外来担当一覧表が一部変更になりました。
同封いたしますので、ご確認をお願いいたします。**

また、診察予約票に担当者名を追加しました。お手数ですが、
差し替えをお願いいたします。

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225 (直通)

FAX 0984-23-8226



編集後記

紫陽花が咲き、梅雨に入りじめじめとこんな時期はみなさんはどう過ごされますか。
こんな時は好きな音楽を聴いてアップルティーを飲んで過ごしたり、お子さんがいる方は、
ホットケーキを焼いてみんなで食べたり、ゆっくりと過ごす時間などいいかもしれません。
私ごとですが、梅雨時期はカーペンターズを聞くのが好きです。話題になったパフォーマンスミュージックの
アル・ウィリアムズ「Happy」ミュージックビデオは楽しいですよ。何故か、ふなっしーも出ていました。
ゆっくりと楽しくお過ごし下さい。皆様の健康とご活躍をお祈りしております。